

公開実用 昭和 58— 60977

19 日本国特許庁 (JP)

31 実用新案出願公開

12 公開実用新案公報 (U)

昭58—60977

Int. Cl.³

識別記号

庁内整理番号

43 公開 昭和58年(1983) 4 月25日

H 05 K 5 02

6332—5 F

H 01 R 23 64

6661—5 F

H 05 K 7 02

6428—5 F

審査請求 未請求

(全 頁)

54 電子回路収納装置

東京都港区芝五丁目33番1号日
本電気株式会社内

21 実 願 昭56—155763

21 出 願 人 日本電気株式会社

22 出 願 昭56(1981)10月20日

東京都港区芝5丁目33番1号

72 考 案 者 藤澤亨

74 代 理 人 弁理士 内原晋

明 細 書

1. 考案の名称

電子回路収納装置

2. 実用新案登録請求の範囲

互に隣接部分を同形状とし電子回路を内蔵した複数の単位きょう体と、これらきょう体の前記隣接部分で互に嵌合するように配設された所定数のコネクタ部とを含む電子回路収納装置において、前記コネクタ部は別の隣接部との間で形状、配設数、配設形状、芯線数あるいはこれらの組合せを異らせることにより、前記各単位きょう体間の隣接接続をなくして嵌合させたことを特徴とする電子回路収納装置。

3. 考案の詳細な説明

本考案はプリント基板等の電子回路を組合わせて通信機器等を構成するための収納装置に関する。

従来、システムコンボ等のように機能毎のユニ

ットに分割した電子機器は、各ユニットを箱形きょう体へ収納し、各ユニット間を外付けの配線で連結していた。しかし、各箱形きょう体のコストが高く、修理の際の工数が多くかかり、かつ大きさが不揃いなので積上げ段数が少く、置場所を多く要した。さらに、これらユニットの間の外付配線があるために設置の際の誤配線、使用中の誤断、脱落等があり、且つ、外觀が雑然となる欠点を有している。

本考案は、互に隣接部分を同形状とし電子回路を内蔵した複数の単位きょう体と、これらきょう体の前配隣接部分で互に嵌合するように配設された所定数のコネクタ部とを含む電子回路収納装置において、前配コネクタ部は別の隣接部との間で形状、配設数、配設形状、芯線数あるいはこれらの組合せを異らせることにより、前記各単位きょう体間の誤接続をなくして接合させたことを特徴とする電子回路収納装置にある。

以下図面により本考案を詳細に説明する。

第1図は本考案の実施例の分解斜視図である。

5

0

5

)

図中、単位きょう体1は、例えば、ダイキャスト
軽金属製の外枠からなり、その中に通風を考慮し
た状態で複数のプリント基板が取付けられる構造
となっている。このきょう体1は前面の調整ツマ
ミ17等とにより調整され、例えば、チューナー
とプリアンプの機能を有しており、その電源、及
び入出力信号、他との接続は四隅に設けたコネク
ターを結合して行われる。この単位きょう体1は、
例えば、チューナーとプリアンプを組込んだもの
と、電源を組込んだものと、電力増巾器を組んだ
ものとの3個を1組として横上げられ、上板2
と底足4が付いた底板3とを上下に取付けて組立
られる。各単位きょう体1間は凹ジャック14と
凸プラグ15により嵌合させて固定するが、この
実施例では各端部、計4個所の凸凹の組合せを変
えることにより、各単位きょう体1の組合わす順
序の誤りも防止することができる。

1

1

なお、電子回路の消費電力量によっては、上板
2と底板3とに空気流通穴を備えて、各単位きょ
う体1中に空気を流させて冷却させることも出来

2

る。さらに、電磁シールドの必要な場合には、第 2 図に示すように、各単位きょう体 1 のシールド板 2 4 を設けて各単位きょう体 1 の間にシールド板 2 3 を挿入することも出来る。

また、通常各単位きょう体 1 は転倒しなければ
分離することはないが、必要により各単位きょう
体 1 の両側の側板タテコミ 2 1 へ側板ビス 2 2 を
用いて側板 2 0 を取付けて一体化することも出来
る。この場合には、各単位ユニット 1 の相対位置
は側板 2 0 により強固に固定されるので、四隅の
コネクタは、第 3 図、第 4 図に示すように、コス
トの安い平プラグ 1 1 と平ジャック 1 2 との組合
わせとすることが出来る。

本考案の単位ユニット 1 の枠をダイキャスト化
して統一し、プリント板の大きさと実装方法を標
準化することができる。また、機能別に必要な単
体ユニット 1 の穴明けは生産数量により、別々の
型によりダイキャストするか、又は大量生産後に
別々に加工するか選択すればよい。

本考案は、例えば、ラジオ、コンポステレオ、

通信路の多重化回路を付加した小多重無線通信装置まで適用出来てコストダウンが計れる。特に、アマチュア用無線機に適用した場合、送受信の基本機能と制御部で1つの単位ユニットとなり、各アマチュアバンド毎の高周波部を空中線マッチング部を含めて単位ユニットへ収納して希望の組合を実現すればよい。

また、電源部が不要な車載機の場合は、基本ユニットと希望の高周波ユニットとを組合せて使用できる。このような場合に隣接単位ユニットからの折返し配線があれば、第5図に示すように、凸ダミー16を底板3又は上板2との間に入れて凹プラグ14を終端することができる。

本考案によれば、電子回路の収納装置を極めてよく統一でき、生産コストを引下げることができる。さらに、外觀の体裁が良く、保守性が良好で、組立時にもフルブーフによる誤組立、誤配線が防止出来る。

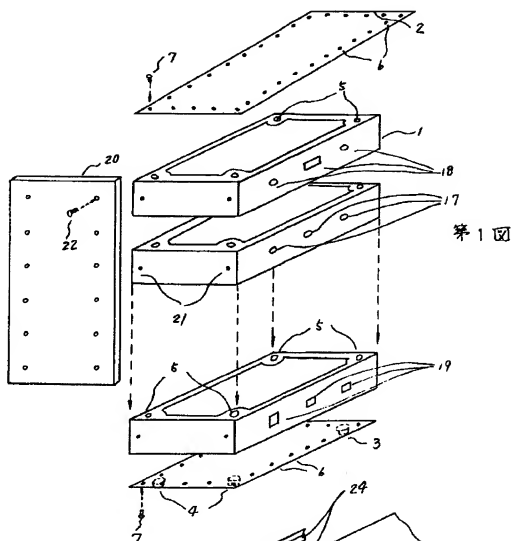
4. 図面の簡単な説明

第 1 図は本考案の実施例の分解斜視図、第 2 図は第 1 図の端部拡大図、第 3 図は第 2 図の端部と配線部との分解斜視図、第 4 図は第 1 図の配線部のかん合状態の断面図、第 5 図は第 1 図の配線部他の断面図である。図において

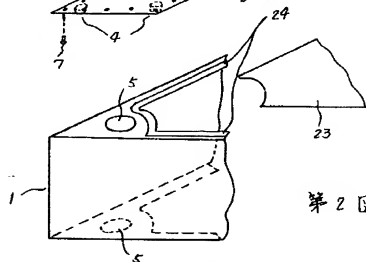
1 ……単位きょうり体、2 ……上板、3 ……底板、
4 ……底足、5 ……配線穴、6 ……板ネジ穴、7
……タップネジ、8 ……皿ビス、9 ……皿ネジ穴、
10 ……タテコミ、11 ……平プラグ、12 ……
平ジャック、13 ……配線、14 ……凹プラグ、
15 ……凸ジャック、16 ……凸ダミー、17 ……
調整ツマミ、18 ……インジケーター、19 ……
イヤーンジャック、20 ……銅板、21 ……銅
板タテコミ、22 ……銅板ビス、23 ……シールド
板、24 ……シールド板薄である。

代理人 弁理士 内 原 晋





第1図



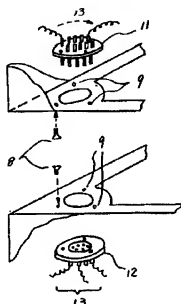
第2図

650

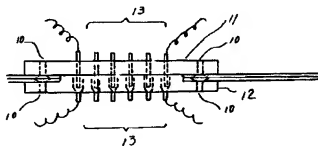
代理人 井原上 内原 晋

実用58-60977

第 3 図



第 4 図



第 5 図

